



11月6日（木）実践・表現

「身近な素材と環境で考える乳幼児の表現」

講師 株式会社なーと 代表取締役 和泉 誠さん

「素材との出会い方ひとつで、子どもの世界は、変わるんです」と和泉先生のやわらかな声が会場に広がり、研修がスタートしました。



○廃材ではなく、「素材」として

子どもたちに渡すものは、“ごみ”ではなく、素材です。工場の余り物や家庭で出るいらないものも、並べ方を変えるだけで、まるで宝石のように輝く。子どもにとって、それは“世界”との出会いの入り口。触って、嗅いで、確かめて…「これなんだろう？」と心が動く瞬間。そこから、探究が始まり、やがて「ねえ、見て！」と誰かに伝えたくなる。その“伝えたい”という気持ちこそが、表現の始まりです。

○素材(モノ)との出会い

- ・世界を知覚する
- ・探求する
- ・心を動かす

○素材(モノ)との出会いとは

- ・力タチを作ることではない
- ・素材の可能性を探る
- ・今までとは違う視点をもつ

○素材(モノ)との出会いの三要素

- ・質量、スケール感
- ・色彩
- ・可塑性

○身近な素材 ~新聞紙で遊んでみよう~

子どもにとっての
新聞紙の大きさは…



新聞紙を4枚つなげ
たぐらいの感覚！
おっきいいい！！



新聞紙で色々なもの
ができました！！



途中でアルミホイル
も追加！強度が増し
たり、差し色になった
り…遊びに変化が生
まれました。

～子どもたちが世界と出会うこと～

そこには私たちが気づかないようなこともたくさんあります。子どもたちの発見や驚きと共に、私たちも世界を再発見(出会い直すことが)できるのではないのでしょうか。